

令和5年度 学校評価報告書
島根県立矢上高等学校

【4段階評価】A:十分に達成できている状況(4点) B:概ね達成できている状況(3点) C:どちらかといえば達成できていない状況(2点) D:ほとんど達成できていない状況(1点)

評価計画						自己評価		学校関係者評価	
教育目標	分掌等	重点目標・目標達成のための施策	評価指標	評価値	評価	成 果 と 課 題	来 年 度 の 取 組 み	評価	委員からの意見
○教養と技能を身に付け、目標に向かって主体的かつ誠実に行動する人を育てる	学校運営	1. 生徒の思いを受け止めつつ、生徒に考えさせきめ細かい指導、粘り強い指導を行う。		3.3	A	3年生を中心にきめ細かい指導を展開し、進路希望を実現することができた。	本校のグランドデザインの中でも特徴的なところなので、全学年できめ細かい指導ができるようにしていく。	A	・教職員の働き方に関する自分自身で取り組んでいくことも大切ではないか。 ・運動部系の部活動では外部指導者に任せるべき。 ・海外への修学旅行など考えてもいいかも。 ・町内で働いている人にサポートしてもらうと良い。(例えば体育祭で看護師の資格を持っている人など) ・自分の思っていることを言える、風通しの良い職場づくり。
		2. 前例踏襲に陥らず、変化を恐れず、目的と成果目標を意識して取り組む。		3.2		概ね目的と成果目標を意識して取り組むことができたのではないかな。	3月下旬から次年度の取り組みを考える間に合わない。2月くらいから構想を練る必要がある。		
		3. 部課長・主任のリーダーシップと責任のもと、分業・協業体制を構築して取り組む。		3.4		部課長・主任の先生にはリーダーシップを発揮しない人数の中で皆さんで協力し合って取り組んでいる。	仕事が偏らないように、校内人事に取り組んでいく。		
		4. 多忙感の解消と仕事と生活の充実につながる「働き方改革」を推進する。		2.7		定期試験時の問題作成の時間の確保、試験中の午後に会議を権力入れない、終業式前の3日間を平日にして保護者面談時間を確保するなど新しい取り組みを行った。	職員朝礼週1回、欠席連絡の電子化、「入学の手引き」の簡素化などに取り組みたい。		
	魅力化推進センター	1. 新学習指導要領に則した教育内容の充実を図るとともに、地域や大学と連携して探究学習の深化と授業力の向上に取り組む。		3.4	A	先生方の積極的関わり(例:1年地域×教科、2年1班1教員担当制等)により、探究学習の深まりが見られた。協育パートナーの役割明確化、県内大学との連携が課題。	協育パートナー研修会を開くなどして、活動目標の共有化を図る。2・3年生「起業探究」を中心に県立大学浜田キャンパスとの連携を進める。「探究ミニ研修」は継続したい。	A	・県旅館ができたので、女子向けには住環境をPRできるのでは ・町の中学生のうち30名弱が矢上高校にこない理由の分析が必要ではないか。 ・探究活動が学習意欲の向上につながっていない。 ・卒業生が気軽に寄れるような学校作りをしてほしい。卒業生とのネットワークづくり。
		2. 矢上高校と未来をつくる会(コンソーシアム)の運営を安定させ、第2期矢上高校将来ビジョン、矢上高校グランドデザインに基づいた学校の魅力化・特色化をさらに進める。		3.6		学校とコンソーシアムの役割分担が明確になり、クラウドファンディングや公営整立準備等協働が進んだ。予算に関するアンケートを実施したので、次年度の活動にいかしたい。	「第2期矢上高校将来ビジョン」(R3～7)の検証を開始し、「第3期ビジョン」(R8～12)作成準備(概要・体制・スケジュール等決定)に入る。		
		3. 「求める生徒像」に基づいた入学者を安定的に確保する。		2.6		近隣中学校は個別訪問、県外生はオンライン・個別説明会等に対応。定員増が認められ、教員定数が増えた。特に県外生に対して「求める生徒像」を明確に提示していきたい。	生徒募集パンフレットで強調する等、「求める生徒像」の伝え方を工夫する。高校入試の変更を踏まえ、生徒募集の年間計画を明示して、教務部や部活動顧問と連携する。		
				3.3		活性化には程遠かったが、先生方のお力添えにより、乗り切れた印象であった。	事前の計画、準備を綿密に行い、スムーズな運営を心掛ける。		
	総務	1. 学校行事の円滑な運営と学校の活性化を図る。		3.5	A	矢高だよりでは紙面が許す限り、最新の情報を掲載できた。今後も最新情報をいち早くお届けしたい。	様々な媒体で、より魅力的なコンテンツの創造を目指したい。	A	・教職員の働き方に関する自分自身で取り組んでいくことも大切ではないか。 ・運動部系の部活動では外部指導者に任せるべき。 ・海外への修学旅行など考えてもいいかも。 ・DXつなげてネットワーク構築ができるのではないかな ・高校だけでなく中学校でも学習時間は伸びない。 ・教員がやりたいことをやらせてもらう、そうすればストレスも減るのではないかな。 ・教育から情熱が失われるのではないかという危惧がある。
		2. 学校からの魅力的な情報発信に努める。		3.7		新入生オリエンテーションをークラス一時間ずついただけ、利用案内や館内見学、本の貸出ができました。一年生の時から図書館に足を運べるきっかけ作りになったと思います。	継続して情報発信や授業活用支援に努めていきたいです。また、図書委員会の活性化を図りたいです。		
		3. 居場所としての図書館づくり。		2.8		とても幅広い課題と捉えている。部としてはICTの活用を推進するという観点で、職員会議の資料、朝礼伝達をPCで共有するという点に留まっているが今後、プライバシーの扱いについて配慮しながら、広く、ICTの活用を推進したい。	・Googleカレンダーでを活用し、学校行事予定を共有。 ・学校連絡共有ツール「すぐる」の活用の推進。 ・HPの更新について検討する。		
		4. 働き方改革を進める。		3.1		ICTを活用した授業については多くの先生が活用しているようであるが生徒にどう利用させるかが課題と考えられる。学習時間の確保については不十分であり課題が残っている。特別な支援を要する生徒への対応として、試験問題の拡大及びルビ振りができた。	ICT機器の活用について授業の中で生徒が活用できる方法を考え実践する。学習時間の確保に対して適切な量の課題を設定する。特別な支援を必要とする生徒へ引き続き支援を行う。		
○自他を尊重し、他者と協働して共に学び高めあう人間を育てる	教務	1. 生徒が主体的に取り組める学習環境の確保		3.4	A	シラバスは作成できたが活用が不十分である。	次年度が新課程の完成年度であるので引き続きシラバスの作成をお願いしたい。評価基準を必ず作成していただきたい。ルーブリック等を利用して評価していく。授業見学だけではなく教科に共通する問題を検討する機会を作る。	A	・保護者会など学習時間など共有し、ノウハウを伝達、協力を求める姿勢。 ・本を読む習慣も必要。 ・ちょっとした体調不良なら、むしろオンラインで自宅とつないで授業に参加させるといったことはどうか。
		2. 新教育課程の円滑な実施		3.4		先生方や生徒のおかげでオープンスクールは成功した。志願倍率は1倍を切ったがある程度成果は上がっている。	オープンスクールは負担を増やせずに継続していく。魅力化とタイアップして生徒募集を行う。		
		3. 魅力ある学校づくり		2.9		成果は問題行動に対して生徒指導部を超えて、チームで丁寧な対応ができたこと。課題はプロアクティブな生徒指導を積極的に展開すること。	「ポジティブ行動介入及び支援」的な要素を積極的に取り入れていくこと。善行賞等のポジティブな支援を積極的に取り入れていくことで、良い行動を促し、より良い学校を構築していく。		
				2.9		成果は人権教育の実施により人権感覚の涵養を目指して取り組むことができたこと。課題は人権教育を日々の生活に生かせるようにすること。	人権教育の継続。生徒会行事、部活動等による協働する場面を支援し、企画、運営していく。		
	生徒指導	1. ルール・マナーを守った基本的習慣を確立する。		3.3	B	学園祭等の行事において、生徒が主体的に運営、行動したこと。また、制服検討委員会を立ち上げて生徒も参画し検討ができたこと。このことにより活発な生徒会になりつつあることが成果である。課題は、生徒会だけでなく、生徒の積極的な参加を促すこと。	制服、ほう賞など、生徒会が参画していることを継続し発展させていけるようにすること。生徒会だけでなく、その他の生徒も積極的に参画できるような運営をしていく。	B	・校則をこどもに決めさせると良い。制服とかも自分で決めさせる。 ・自由の自己責任を自分で持つということを理解させる。 ・今の高校は手をかけすぎではないか。それが子供の成長を阻害している。 ・昔は生徒同士のいざごは記憶にない。人間関係の構築ができていれば何かあっても友達が何とかなしてくれる。 ・価値観が違うことをプラスに考えたら良い。
		2. 自他を尊重し、他者と協働して明るく元気な学校づくりをする。		3.4		年間行事予定より少し多く講演会を実施したり、体験活動への積極的な参加を学年部に依頼しました。2年後あるいは3年後の進路実現のための一助となるよう、生徒への意識づけや年間を通した学習計画の作成が必要となりました。	来年度は主に1・2年生を対象に進路学習(年5回程度)を計画するとともに、通常のガイダンスの他、大学見学を実施する方向で考えています。		
		3. 目標に向かって主体的かつ誠実に行動する。		3.6		多くの先生方のご協力により、生徒の進路決定をスムーズに進めていくことができました。ありがとうございました。大学入試の形態が、一般入試から推薦入試重視への傾向に変化しつつある中で、推薦指導などにおける先生方への負担をいかに軽減していくかが今後の課題と考えます。	1、2年次の早い段階から、各学年部と連携しながら、体験活動への参加を促すとともに、探究活動の内容と志望理由がマッチしない生徒などへの早めの対応を実施していきたい。		
				3.3		将来の職業選択とのミスマッチが起こらないよう、年度途中で文理講演会を実施した。3年間を見通した計画がまだ不十分であるので、魅力化などとし連携しながら地域課題や郷土愛の定着につながる行事の設定を行ってきたい。	実際に実施した講演会の内容が今一つのものなどもありましたので、外部業者との連携を密にし、本校の目的に極力沿ったものになるようなガイダンスや講演会を実施できるようにする。また、地元企業など就職分野も含めたガイダンスを実施する。		
	進路指導	1. 三年間を見通した計画的な指導を行い、進路目標を主体的に設定出来るように支援する。		3.1	A	身体症状で入室する生徒は減少した。しかし、多様な生徒が入学しており、愛着形成の問題からうまく人間関係をつくるのができずストレスを抱えている生徒が複数いる。	生徒の現状にあった講演会の実施や外部機関と連携。	A	・夏休みなどに職場体験などをしてもらいたいのではないかな。 ・高校に入ってどうなりたいたのかと聞くのは遅い、小中学校での職場体験を充実できないかな。 ・協育パートナーのように、親や教員以外の大人から話を聞くのが大事。 ・いろんな分野の話を聞くのが大事。
		2. 一人ひとりの希望に即したきめの細かい指導、粘り強い指導を行い、進路目標を実現出来るように支援する。		3.5		掃除の監督や安全点検のご協力ありがとうございます。	掃除道具の整備を適宜行う。		
		3. 生徒が学ぶことと将来のつながりを見通しながら社会的・職業的自律ができるよう支援する。		3.5		学習面で支援が必要な生徒に対し、先生方のご協力のもと、合理的配慮をおこなうことができた。	合理的配慮の評価や見直しを行う。		
				2.9		働き方改革で外部舎監の方に業務委託を多くするようになった。舎監の方はいろいろと厳しく指導をしていたいているが生徒がなかなか指導に従わないとか、指示を聞いていないということが多々あると外部舎監の方から報告を受けています。そのような状況から勉強をする生徒としない生徒の差が広がってきている。	学習時には学習に集中して取り組むように指導をしっかりとしていきたい。場合によっては学習時間中の洗濯の禁止も検討してかなければならない。		
	保健	1. 生徒の心身の健康状態を把握し、かつ適切迅速な対応をする。生徒自身も健康管理が出来るように支援する。		3.6	A	コロナ禍から引き続き感染症対策について舎監より指導していただいたのおかげで感染症対策はきちんとできていたと思います。	コロナだけではなく季節によってインフルエンザや風邪が流行することもあるので引き続き徹底して感染症対策を行ってきたい。	A	・県旅館ができたので、女子向けには住環境をPRできるのでは ・町の中学生のうち30名弱が矢上高校にこない理由の分析が必要ではないか。 ・転出者の理由も検討が必要がある。 ・卒業生が気軽に寄れるような学校作りをしてほしい。卒業生とのネットワークづくり。 ・寮生が増えると寮生活の安定化が問題となる。
		2. 快適で安全な教育環境の実現に努める。		3.7		今年度は地域の方やビレッジプライドの職員の方、先生方にご協力いただき、パーベキューやクリスマス会などのイベントが実施できた。	来年度も引き続きいろいろな行事を計画して実施していきたい。		
		3. 特別な支援を必要とする生徒へのサポートを行う。		3.4		1年生の農業技術検定の合格率が昨年の半分程度であった。工業では、2、3年生のこれまでにない資格取得に取り組む生徒も見られた。	一人一資格を目標に卒業時に取り組んでいきたい。		
				3.4		新たにスマート農業に取り組みが見られた。3年生では、最後に向けて取り組みが充分でない班についても見られた。	やるべきことの優先順位を考えさせ、取り組みせたい。		
○地域の産業や文化に関心をもち、地域や社会に貢献しようとする人を育てる	舎務	1. 生活の規律化による学習の充実。		3.6	A	地域と連携しながら、課題研究などについても取り組んだ。	取捨選択が必要であるが、生徒に取り組むみたい。	A	・校則をこどもに決めさせると良い。 ・制服とかも自分で決めさせる。 ・自由の自己責任を自分で持つということを理解させる。 ・今の高校は手をかけすぎではないか。それが子供の成長を阻害している。 ・昔は生徒同士のいざごは記憶にない。人間関係の構築ができていれば何かあっても友達が何とかなしてくれる。 ・価値観が違うことをプラスに考えたら良い。 ・毎日部活のように勉強させる。強制も大事ではないか。
		2. 感染症の予防対策を徹底して行い、寄宿舎生の健康の保持を図る。		2.9		欠席の多い学年であり、皆勤は非常に少ない。成果は、朝礼前の遅刻が減ったこと。	時間を守る、規則正しい生活をするということを、伝え続ける。		
		3. 工夫しながら寄宿舎行事の充実を図る。		3.1		軽はずみに乱暴なことを口に出す生徒が見られる。	耳にしたら、即時注意し続ける。		
				2.4		この学年で一番苦勞した項目であった。面談をしていくうちに分かってきたのは、勉強は学校でするもの、家は休息の場、自由にくつろぐ場だと多くの生徒が思っていることであった。本校の上位層に位置するものでさえ家庭学習時間が少ない。	家庭でも勉強しなければ、国公立大学には行けないことを、伝え続ける。また、課題に真面目に取り組むことでテストで点がとれた、模試の偏差値が上がった、各種検定に合格したという成功体験を積みせていきたい。		
	産技	1. 専門学習の深化を図ることで資格取得の推進を図る。		3.2	B	進路指導部や魅力化から情報発信してもらい、進路と向き合う時間は増えている。特に年末の医療体験ツアーは好評で、多くの生徒が参加した。	2年次にはオープンキャンパス参加を促し、より目標をはっきり持たせ、進路実現に向けた学習に向かう姿勢につなげていく。	B	・校則をこどもに決めさせると良い。制服とかも自分で決めさせる。 ・自由の自己責任を自分で持つということを理解させる。 ・今の高校は手をかけすぎ。それが子供の成長を阻害している。 ・昔は生徒同士のいざごは記憶にない。人間関係の構築ができていれば何かあっても友達が何とかなしてくれる。 ・価値観が違うことをプラスに考えたら良い。 ・教員にとって居心地が良い学校であれば生徒にとっても居心地が良いはず。
		2. 課題研究を充実させることで、各コースにおける特色ある教育活動を実践する。		3.2		総合探究の時間では、一人ひとりが自分の希望進路に関連した課題発見、解決策を考えることで、邑南町のことを知り、希望進路分野の現状を知ることができた。産業技術科は産業祭や矢高ショップ出店、職員室での販売体験を積み、お客さんに対する思いやりや、自慢の商品の売り込みスキルが育ってきていると感じた。	来年度は、より中心になって地域と交流する機会が増える。自信を持って、自分の考えや自分たちが作った品を宣伝できるよう準備段階から主体的に取り組ませたい。		
		3. 関係機関や地域との連携による教育活動を実践する。		3.0		模範試験前後の意識づけや保護者説明会等を通して進路目標が徐々に明確化している。	進路目標に向けて、具体的な取り組みを早めに取り組ませたい。		
				3.2		遅刻は少ないが、些細な体調不良を理由に欠席をする生徒が例年以上に多かった。	入学当初から学校全体で安易に欠席を考えないように指導する。		
	1年	1. 基本的な生活習慣を育成する。		2.7	A	精神的に幼く、脱中心化されてない生徒による人間関係のトラブルが多かった。	対面でコミュニケーションが求められる場面を増やす。	A	・公営塾で予備校の先生に入ってもらおうと学力が伸びるのではないかな
		2. 人権尊重の精神と態度の定着させる。		3.1		学習に対する意欲の差が著しい。	家庭での学習習慣の確立を促す。		
		3. 基礎学力の定着と自立的な学習態度を育成する。		3.6		ほとんどの生徒が第一志望に合格した。	基礎学力の向上。		
		4. 進路目標の確立を支援する。		3.2		社会問題に対する意識付けがあまりできなかった。	地域人材との交流に加えて、個人が主体的に社会問題に対して興味関心を持つような取り組みが必要。		
	2年	1. 基本的な生活習慣を確立する。		3.7	B	共有すべき情報は職員間で的確に図れた。今後も継続していきたい。	1.連絡・相談を通じて全職員との情報交換を密にし、必要な情報の共有に努める。	A	
		2. 人権尊重の精神と態度を定着させる。		2.9		LHRやその他の学校生活において、自己を認め、他者を尊重する姿勢が育成されている。	2.経費の節減を図り、効果的な予算執行により教育環境の整備に努める。		
		3. 自主的な学習態度の定着させる。		2.6		学習時間が1学期は減少傾向だったが、学習時間調査を実施したことなどにより、増加傾向にある。	3.効率的な運営に向けた業務の点検に努める。		
		4. 進路目標の具体化させる。		3.0		模擬試験前後の意識づけや保護者説明会等を通して進路目標が徐々に明確化している。			
	3年	1. 基本的な生活習慣の定着させる。		3.2	A	遅刻は少ないが、些細な体調不良を理由に欠席をする生徒が例年以上に多かった。	入学当初から学校全体で安易に欠席を考えないように指導する。	A	
		2. 人権尊重の精神と態度の定着させる。		2.7		精神的に幼く、脱中心化されてない生徒による人間関係のトラブルが多かった。	対面でコミュニケーションが求められる場面を増やす。		
		3. 自主的な学習態度を確立する。		3.1		学習に対する意欲の差が著しい。	家庭での学習習慣の確立を促す。		
		4. 進路目標の実現させる。		3.6		ほとんどの生徒が第一志望に合格した。	基礎学力の向上。		
	事務室	5. 地域や社会に幅広く目を向けれる力を育成する。		3.2		社会問題に対する意識付けがあまりできなかった。	地域人材との交流に加えて、個人が主体的に社会問題に対して興味関心を持つような取り組みが必要。		
		1.連絡・相談を通じて全職員との情報交換を密にし、必要な情報の共有に努める。		3.7	A	共有すべき情報は職員間で的確に図れた。今後も継続していきたい。	1.連絡・相談を通じて全職員との情報交換を密にし、必要な情報の共有に努める。	A	
		2.経費の節減を図り、効果的な予算執行により教育環境の整備に努める。		3.6		効果的な予算執行はできたが、限られた予算故に、先生方にはかなり我慢をしていただいた。	2.経費の節減を図り、効果的な予算執行により教育環境の整備に努める。		
		3.効率的な運営に向けた業務の点検に努める。		3.7		業務の怠念がないよう情報を共有し点検が図れた。	3.効率的な運営に向けた業務の点検に努める。		

